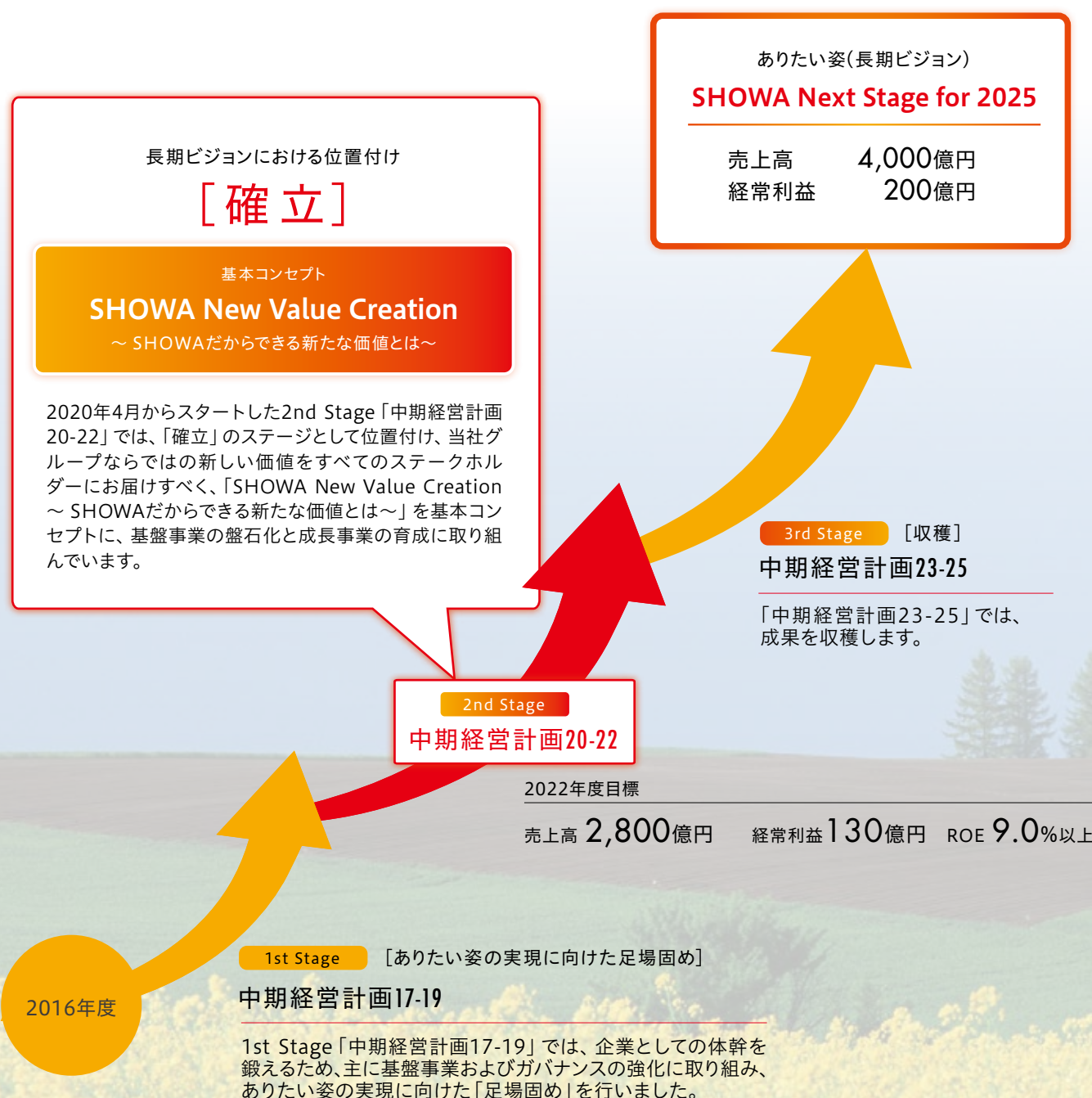


長期ビジョンおよび中期経営計画

昭和産業が創立90周年を迎える2025年度のありたい姿として、長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」すべてのステークホルダーに満足を提供する“穀物ソリューション・カンパニー Next Stage”（2017～2025年度の9年間）を策定しました。

事業環境の変化に対応し、さらなる成長を実現するため、過去の経験から積み上げた数値目標ではなく、ありたい姿から逆算して生み出す価値を財務目標（売上高4,000億円、経常利益200億円）として設定しており、バックキャストの視点で3年間の中期経営計画を策定し、3次にわたり展開しています。



「中期経営計画17-19」の振り返り

定量面

「中期経営計画17-19」の最終年度である2019年度の連結売上高は2,540億円、経常利益は101億円となりました。物流費やエネルギーコスト、人件費などが想定以上に増加した結果、残念ながら目標未達となりましたが、「提案型営業」や「生産効率向上」「価格改定」など、基本的な取り組みの精度が上がったことにより、経常利益は過去最高益を更新するとともに、初の100億円台を実現しました。

(単位:億円)

	中期経営計画 17-19 目標値	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	達成率 (2019年度 対目標値)
売上高	2,600	2,331	2,559	2,540	97.7%
経常利益	115	77	97	101	88.3%
ROE	9.0%	6.5%	9.0%	8.0%	—
自己資本比率	50.0%	45.8%	47.4%	49.2%	—

定性面

「中期経営計画17-19」の基本方針は「ありたい姿の実現に向けた足場固め」のステージであり、企業としての体幹を鍛えるため、「基盤事業の強化」に重心を置きました。具体的には、コンビニエンスストア (CVS) 向けパンの生産一貫体制を確立し、需要が旺盛な大豆たん白や機能性製品の粉末水あめの生産能力の増強を行いました。

基本戦略	主な成果	課題
基本戦略① 基盤事業の強化	[収益の安定化] ・CVS向けパンビジネス ・鹿島工場の生産能力増強	・事業間シナジーの深掘り ・高付加価値品の開発強化
基本戦略② 事業領域の拡大	[アジアへの事業展開] ・台湾での新規事業参入 ・昭和産業ベトナムの設立	・海外参入エリアでの事業拡大 ・次なる成長事業の育成
基本戦略③ 社会的課題解決への貢献	[ESG経営の推進] ・ガスコージェネシステムの導入 ・バイオマスごみ袋の開発	・持続可能な社会への貢献 ・企業価値に貢献する非財務戦略の強化
基本戦略④ プラットフォームの再構築	[攻めと守りのプラットフォームの強化] ・事業戦略推進体制の構築 ・報酬/経営諮問委員会の設置	・事業ポートフォリオ管理体制の推進 ・グループマネジメントの強化
基本戦略⑤ ステークホルダーエンゲージメントの強化	[コミュニケーション手段の充実] ・コーポレートサイト (WEB) のリニューアル ・IR活動の強化	・ステークホルダーとの対話強化 ・対外発信力の強化



TOPICS

台湾において「製粉事業」および「飼料事業(鶏卵)」に参入

台湾に本社がある大成集団と連携し、そのグループ会社で、製粉事業を展開している國成麵粉股份有限公司こくせいめんふんおよび飼料・鶏卵事業を展開している中一食品股份有限公司ちゅういちしょくひんがそれぞれ実施する第三者割当増資を受けました。これにより、新たに台湾において製粉事業および飼料事業(鶏卵)に参入しました。(2019年11月8日取締役会決議、2020年5月20日増資)

國成麵粉股份有限公司では、小麦粉の生産性向上や品質改善に関する技術提供を行い、販売強化につなげます。中一食品股份有限公司では、鶏卵製造における衛

生面・品質管理面での向上を図り、販売強化につなげます。

増資後の当社の出資比率は、國成麵粉股份有限公司が40%、中一食品股份有限公司が35%となり、当社グループの海外事業では初めての持分法適用会社となります。

